

犯罪急増 増加率ワースト1位 犯罪は他人事ではありません

恵那警察署長にインタビュー

恵那警察署管内では、警察に届けのあった刑法犯の件数の増加率が県内でワースト(一番悪い方から)3位、同じく空き巣、忍び込みなどの重要窃盗件数の増加率は県内で1位という緊急事態となっています。そこで恵那署管内の犯罪の状況と特徴、また犯罪を防ぐにはどうしたらよいのかなどについて恵那警察署長にお聞きしました。

恵那警察署長 下平 春樹 さん



恵那警察署管内の状況は 空き巣などの侵入盗の 増加率がワースト1位

警察に届け出のあった刑法犯の件数が、多治見・中津川・岩村署で減少しているのに対して恵那警察署管内では、昨年の10月から犯罪が増え始め、9月末現在で前年に比べて24件増(6割増)と、県内ではワースト3位という状況にあります。

特にその中でも、空き巣、忍び込み、事務所荒らしなどの侵入盗は、前年比124割増と県内でワースト1位という緊急事態となっています。手口別の件数では、空き巣、事務所荒らしが多く発生しています。

岐阜市、大垣市などでは防犯パトロール活動により、犯罪が減ってきています。犯罪が起きにくいまちづくりが定着してきていて、防犯意識の低い周辺地域が狙われています。

**管内での犯罪の傾向は
低い防犯意識が、狙われやすい
環境となる**

最近の犯罪の傾向としては、外国人などによる自販機狙いや車上狙いなど一夜のうちに連続的に犯行を行い、逃げるという「ヒットアンドアウェイ」的な犯罪が増加傾向にあります。

犯罪の起きにくいまちづくりを 防犯に特効薬は無い 防犯意識と地域の連帯が大切

犯罪は今や他人事ではありません。各個人、家庭、地域がお互いに注意しあって、防犯意識を高めることで犯罪の起きにくい環境ができると思います。

犯罪者の6割が、「地域の人から声を掛けられて犯行をあきらめた」と答えています。地域での声掛け、あいさつは簡単にできる防犯活動。落書きや放置自転車がなく、町がきれいでお互いに規則が守られている町は、犯罪が起きにくい町です。

岩村署管内の恵南地域では昨年から防犯パトロール活動に取り組み、その活動から表彰を受けています。

恵那署管内でも各小学校などをはじめ、地域では防犯パトロール隊が組織され、活動を始めています。防犯に特効薬はありません。一人一人の防犯意識と正しい防犯の知識が大切です。さらに警察、行政、地域が連携を取りながら、安心安全な地域をつくるため活動を進めていきます。

問い合わせ

恵那警察署刑事・生活安全課 0110

をしやすい環境といえます。
ここ最近では、中野方町、笠置町、飯地町で侵入盗が発生しています。
**少年犯罪の状況は
犯罪の5割が少年犯罪、ここ数年
高い数値を示す**
県下では少年犯罪の占める割合が3割程度なのに対して、恵那署管内は約5割と半数を占めています。
犯罪の種類は、自転車の窃盗や占有離脱物横領、オートバイ盗、万引きが多く発生しています。共通して言えることは、罪の意識が無いこと。親も罪の意識は無く、そんなことくらいといった軽い認識ではないかと思っています。
不良行為少年の補導では、喫煙、深夜はいかい、暴走行為などが多く、喫煙については、家庭でも認識が足りないと思います。喫煙から悪いグループの仲間になっていきまます。1人がたばこを吸っているのを注意できない。そこからだんだんグループに引きずり込まれていきまます。グループの中では仲間外れにされるのを恐れ、自分の主張ができずに、悪いということを知りながら犯行を犯すようになります。
最近の問題としては、インターネット、携帯電話の普及により親の目が届かない状況にあります。これ

からはこれが一番の問題になると思います。

現在はメールなどいろいろな通信手段があり情報交換ができることから、援助交際などの問題があっても表面に現れてこないため、潜在化している恐れがあります。服装の変化、所持品などからその兆候を見つけることができると思います。

従って常日ごろから親子関係、コミュニケーションをしっかりとることが大切です。

犯罪を防ぐには

まず家庭、個人で防犯意識を

犯罪を防ぐ具体策としては、犯罪者に狙われにくい環境作りが大切です。ポイントは、「人の目、音、光、時間」の4つが挙げられます。

- ①人の目 犯人は人に見られることを一番嫌がります。生け垣を低くする、不審者に声を掛けることが大切です。
- ②音 敷地に砂利を敷く、チャイム、ブザーを付けるのも効果的です。
- ③光 犯罪者は明るいところを嫌います。センサーライトなど。
- ④時間 犯罪者は犯行に時間をかけたくないため、鍵を増やす、割りにくいガラスにするなど。

武並町の強盗事件の例では、関東などで荒らし回っていたブラジル人グループの犯行でした。犯人を取り調べた結果、こうした通りすがりの犯行でも必ず現場の下見をしていることが分かりました。

どのような犯罪が多い いわゆる泥棒が8割、鍵を掛 けていない家が7割も

管内の刑法犯の件数では、泥棒(窃盗)が約8割を占め、車上狙い、自転車盗、自販機狙い、空き巣の順で多く発生しています。

空き巣などの犯罪は軽く見ている人もいると思いますが、犯人と出くわした時に人命にかかわることが多く、警察では重要窃盗犯罪として注意を呼び掛けています。

侵入盗では7割が無施錠というデータもあり、地域の特性として防犯意識が低いといえます。例えば風呂場やトイレの窓、格子が付いているからと安心してはいけません。格子は2分程度で外されてしまいます。

山間部などは、農繁期の春、秋口など泥棒が入りやすい時期ということもあります。例えば東野、三郷地域は、1軒1軒が離れていて、植木や庭などが立派で外からは見えず、人目も少ないため、犯罪者には犯行

あなたの家は大丈夫? 急増する空き巣などの侵入盗 増加率がワースト1位



鍵を掛けていない家が約7割
まずは鍵を掛けましょう



たばこは二十歳から

